

ポイント①

ふりかえりが書ける板書

- 今日の目標が分かる
- 45分の授業の流れが分かる
- 大事なポイントが分かる

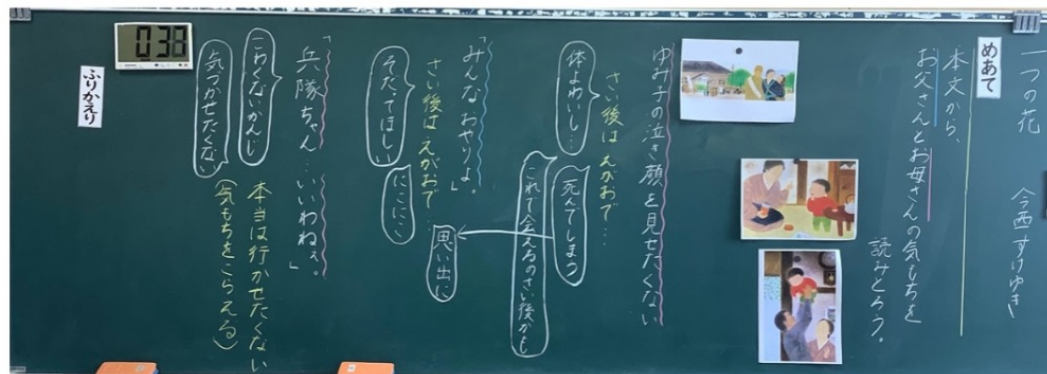
ポイント②

つながりが見える板書

- 子ども同士のつながり
- 既習内容とのつながり
- 情報と情報のつながり

4年国語『一つの花』 お父さんとお母さんがもつ、ゆみ子への気持ちを読みとる

4-2山田学級

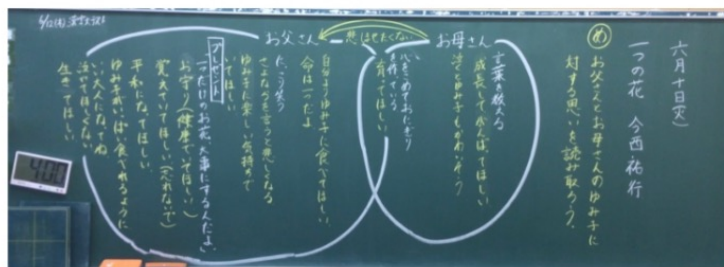


ポイント①ふりかえりが書ける板書

ポイント②つながりがみえる板書

- 子どもたちの共通した意見や、反応が良かった意見を黄色で書くことで、今日の場面での山場に気づくことができる。
- お父さんお母さんのセリフを色分けすることで、誰の発言や行動だったかが分かりやすくなる。

- 子どもたちの意見を吹き出しで書いてみたが、あまりつながりを感じられない。
→数珠つなぎのように、1人の意見に付け足すよう発言を求めたり、指名をしたりすれば、つながりがみえてくる？(板書でも子ども自身でも)
- 「最後は笑顔で…」というのが両親の共通した想いだったが、想いが同じであるということに気づきにくい。
→ペン図を用いる。(天宅先生を参考)



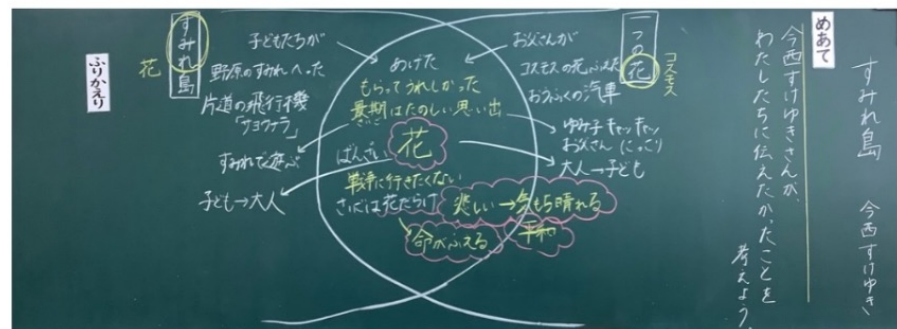
見せていただきました！
4-3天宅学級

天宅先生コメント

- ペン図を用いることで、両親の共通した想いを考えさせやすかった。
- 共通した部分をもっと大きくすればよかった。

4年国語『一つの花』 同じ作者の『すみれ島』と読み比べ、筆者の想いを考える

4-2山田学級

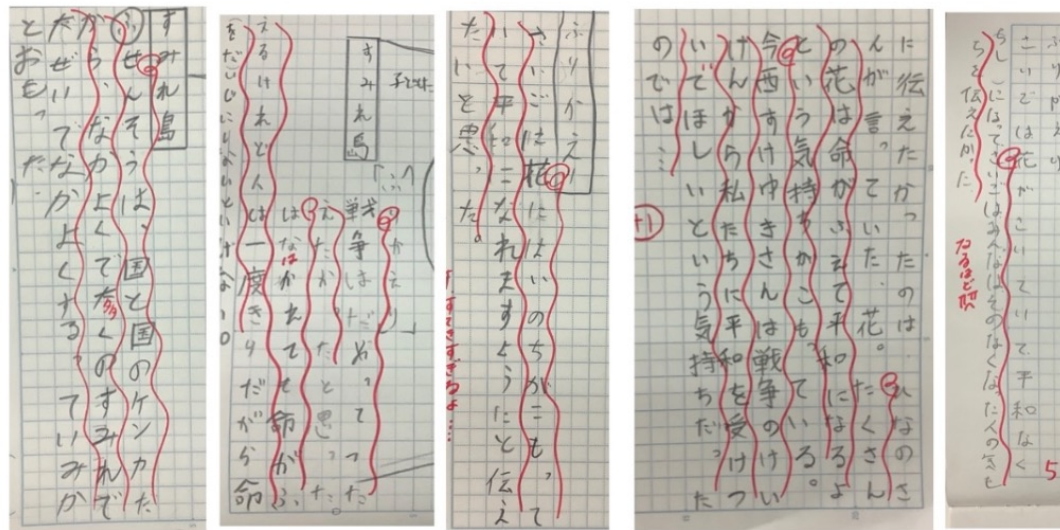


ポイント①ふりかえりが書ける板書

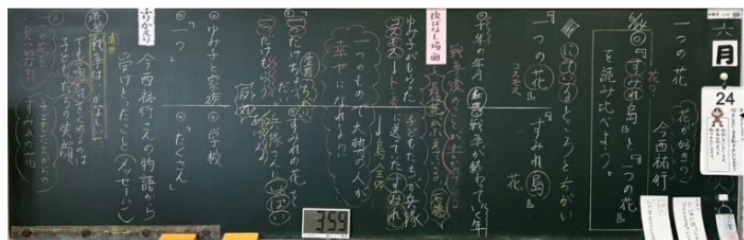
ポイント②つながりがみえる板書

- 子どもたちの共通した意見や、反応が良かった意見を黄色や赤で書くことで、今日の山場に気づくことができる。(色チョークは厳選して書く。)
- ペン図を用いることで、一つの花とすみれ島の違いや共通点に気づくことができる。

- 友達の出した意見からつながるように発言させたことで、板書でも矢印でまとめることができた。視覚的につながりが分かりやすい。
- どれが誰の発言だったかがわからない。
→中心になる意見には、名前を書いてもらった。



4-1辻井学級



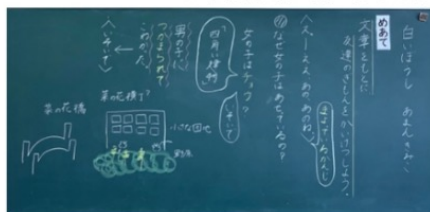
見せていただきました！
4-1辻井学級

辻井先生コメント

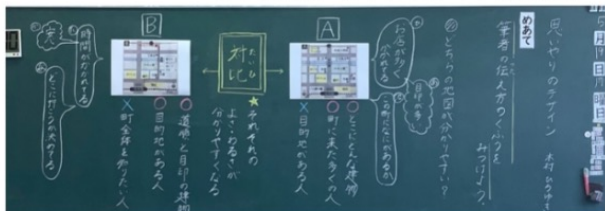
最小値

- 違いや共通点がわかるように、上下に対比させて書いた。
- 色使いが課題。

4-2山田学級『白いぼうし』



4-2山田学級『アップとルーズで伝える』



「シンプルにわかりやすく」

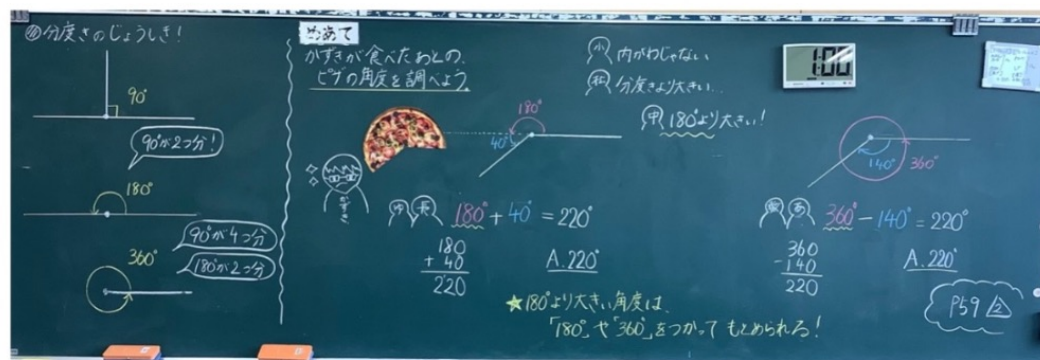
国語の授業では特に、子どもたちの豊かな読み取りで、たくさんの意見があがってきます。しかし、それを全て板書すると、一体何が大切なことなのかわかりづらくなります。そこで、授業では話す時間と書く時間をきっちり分けるようにしました。

話す時間は子どもたち同士でつなげていき、私はリアクションをとったり追い質問をはさんだりしながら、手元でそれぞれの意見をメモしています。チョークを走らせていないので、子どもたちの話内容に集中でき、周りの子どもたちの反応も観察できるところがいいところです。そして書く時間になると、「みんなの話していた内容を黒板にも残しておくね。」と言って板書します。このとき板書にとるのは、中心となった意見だけです。いろいろな意見があるけれど、文章から正しく読み取れることや、この物語の大事な部分はどこなのかを明確に示します。また、書く時間は子どもたちも静かにノートをとります。これは、自分が心に残った人の意見について考え浮かべたり、自分の頭の中を整理するための時間でもあります。

このように、発表ではいろんな意見にふれながらも、板書ではポイントを明確に示すことで、授業の筋がぶれにくくなります。子どもたちがふりかえりを書く際に、今日の大切なことがシンプルにわかる板書を目指しています。

4年算数「角とその大きさ」 180度をこえる角の大きさ

4-2山田学級



ポイント①ふりかえりが書ける板書

- きりのいい角度の復習を黒板側面に残しておくことで、今日の問題を考える際のヒントになる。
- 2つの意見を対比的に並べてかいたことで、それぞれの意見を整理して考えたりふりかえったりできる。
- 筆算のあとをのこしておくことで、くりあがりくりさがりなど、計算でのつまづきに気づくことができる。

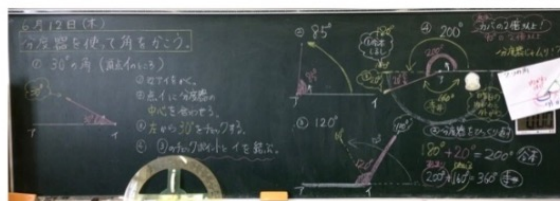
ポイント②つながりがみえる板書

- 子どもたちの発言を板書することで、問題解決へのつながりが分かる。

見せていただきました！

4-1辻井学級
4-3天宅学級

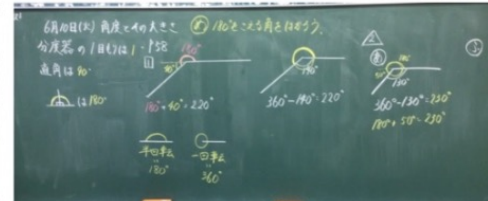
4-1辻井学級



辻井先生コメント

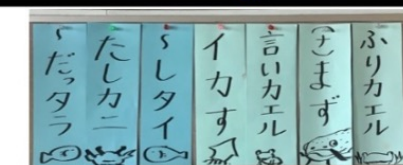
- 子どもの発言を名前つきで書くことで、主体的な学びにつながる。子どもが話したそのままの言葉で書くことが大切。また、その板書を写真に収めておくことで、懇談での話題や所見での評価にもつながる。
- 「イカす」「だッたら」「ふりカエル」などのシャレを黒板横に掲示しておくことで、新しい問題を解決する際につかえるといい見方・考え方を促す。今回は「イカす」をつかった発言があったので、イカのイラストを貼った。

4-3天宅学級

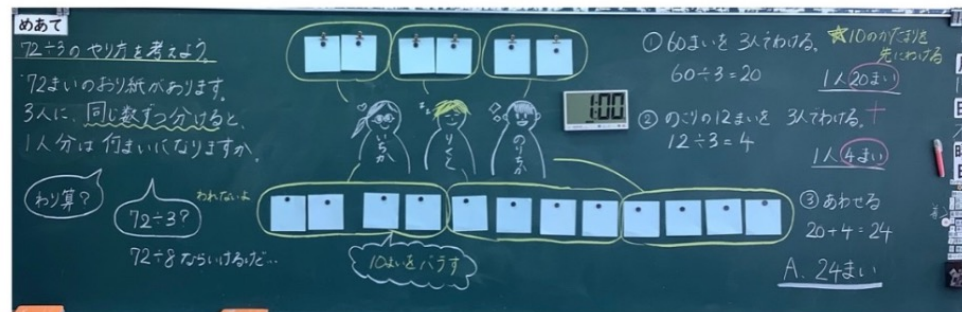


天宅先生コメント

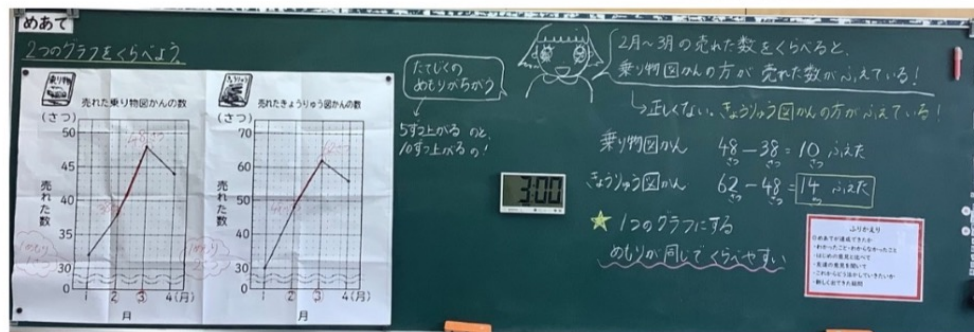
- 子どもの発言で板書を進めることで、主体的な学



4-2山田学級「わりざんの筆算」



4-2山田学級「折れ線グラフ」



4-2山田学級「角とその大きさ」



顔がある

板書をするとき、わたしはよく顔を描きます。きちんと表情のある顔です。ときには、クラスの子もたちをルーレットで選んで登場させることもあります。黒板に顔があると、子どもたちの食いつきがちがいます。顔を見つめながら、問題そのものの意味をアニメ的にイメージしたり、解決しようとしたりします。文章問題などでも、登場する人物や場所を子どもたちの身近なものに変えて板書すると、授業のたのしさレベルが1レベルだけあがります。

オリジナルこだわりポイント

1年生1学期だからこそ、ノート指導も含めた板書を!

「どこから書く?」「1マスあけるのはどこ?」「や、ちいさい「やゆよ」はどのマスにかく?」...

子どもたちの小さな疑問、つまずきに対して、「黒板を見たら分かる」板書になるようにこだわっています。



国語科「つばみ」

つばみ①

導入で挿絵のつばみの特徴を出し合い、どんな花が咲くか予想してノートに絵を描きました。



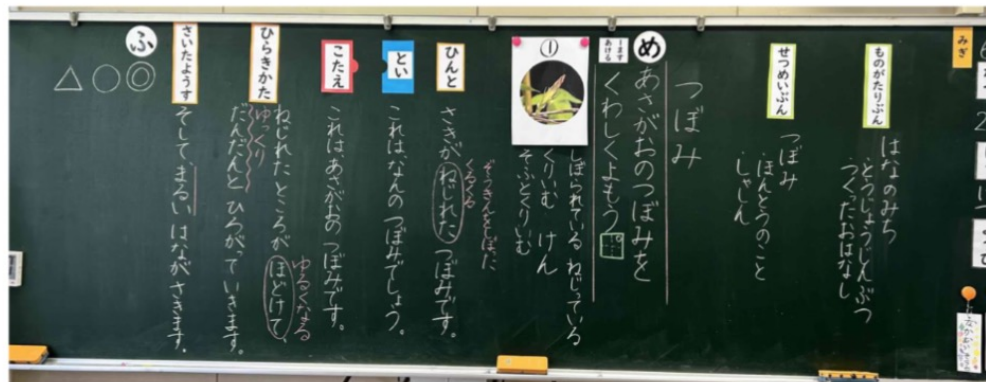
つながりポイント

○子どもたちが出した意見・考えを書き残す。

つばみ②

はじめてのふりかえりに挑戦。3段階でノートに書きました。

本文をかみ砕いた部分を赤字で板書し、読み進めました。

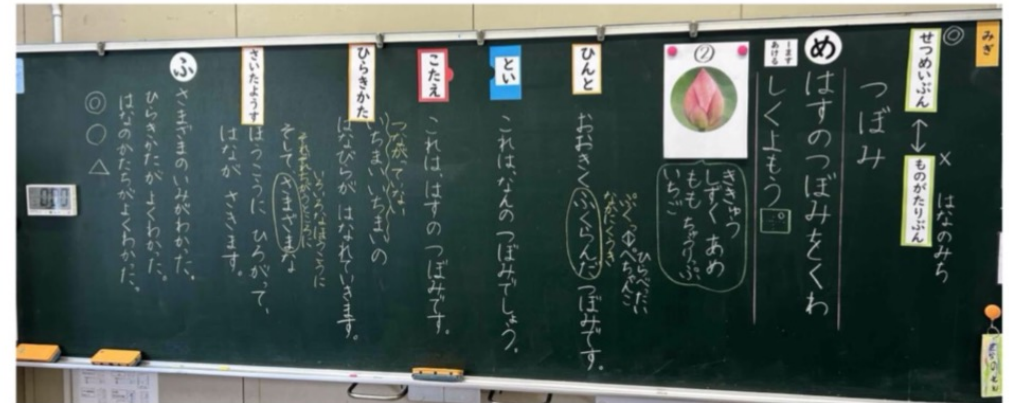


ふりかえりポイント

○問いの文・答えの文が必ずセットになっていることを視覚的に示す工夫をした。

△どこが大事か分かりにくい。

つばみ③

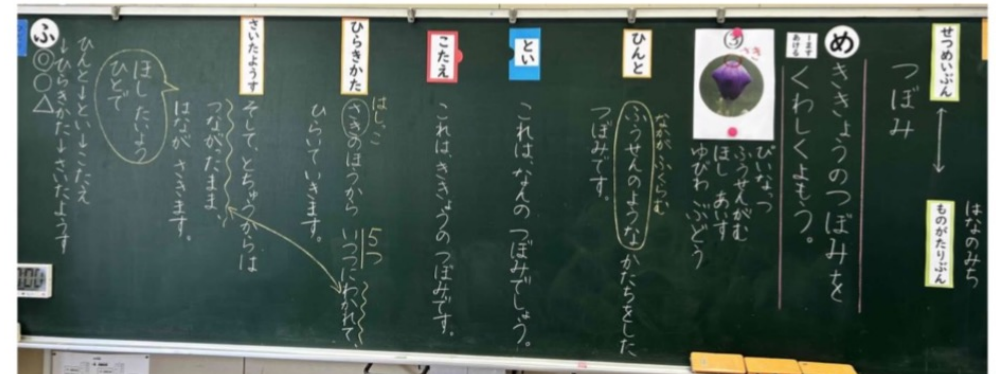


ふりかえりポイント

○子どもたちが発表したふりかえりを板書で記す。

→「どんなことを書いたらよいのか」に対する手立てとなる?

つばみ④



つながりポイント

○前時からのつながり

→「とい」「こたえ」など、キーワードをおさえて、パターン化する。

叙述がどのキーワードにあたるかを、考える。



め

おわきなかつ

くりかえしててくる
ことばにきをつけて
よもう2回

おなじしをもういがい

あま あま おおき おおき
かづになりました。

うんとこし

どこいし

けれども かぶはぬけません。

ちから おはあさん
おれども
それでも
ふたのちからでも

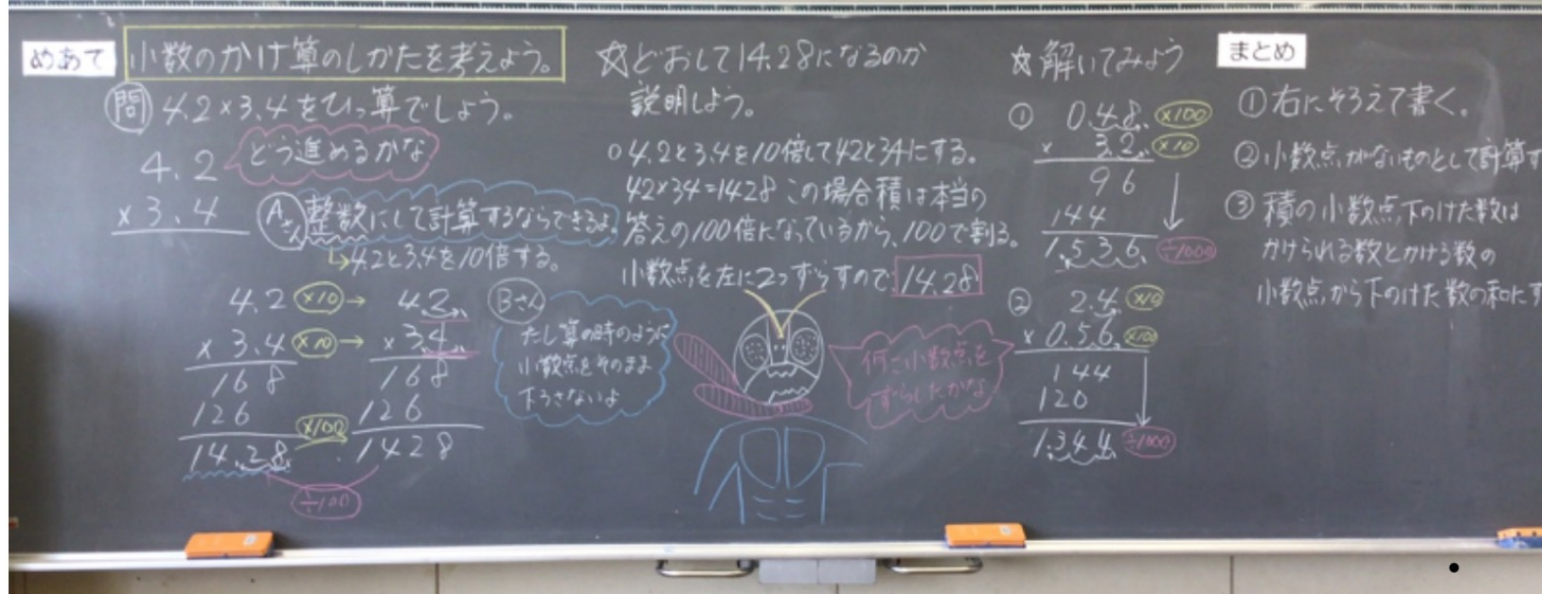
やばり
おもたおひり

またまた
せせんため

なこ
じいなかから

ねすみ
どうどう かぶはぬけました。
やとおれた

△字ばかりになってしまって、大事なところが分かりにくかったり、イメージを膨らませにくかったりする。



藤井

算数

つながりのわかる授業

※ 実際の授業は受け持っていないですが、やったと仮定しています。

→をつける事で小数点の移動をわかりやすくする。
計算を筆算でした上で言葉で書き理解の手がかりとした。

小数から整数の筆算にする時、**×10**など明記する。

仮面ライダーが話しているような板書にしてみました。少しでも内容に取り組めるようにしたいと思います。

小数の筆算と整数の筆算を書くことで何倍かの関係性をわかりやすくする。

振り返りのできる授業

授業の内容のまとめを板書し振り返りができるようにした。

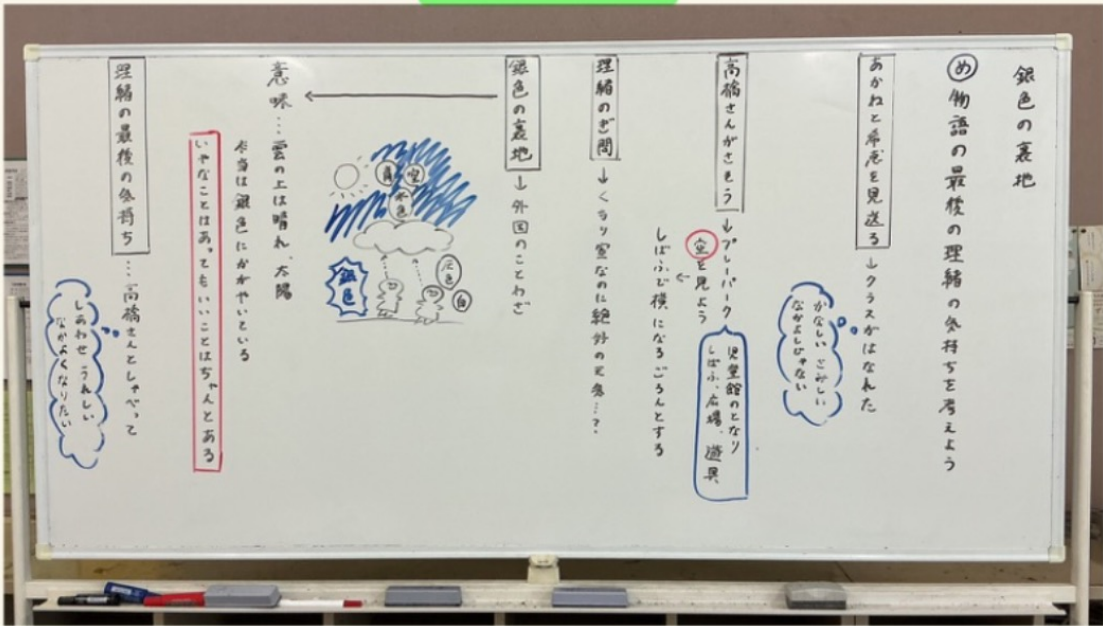
子供の発言もわかりやすく明記する。

練習問題を解く事で振り返りの一助とする。練習問題にも**×10**などをつけて確認した。

注意点

小数点の位置を下ろしてしまうたし算との違いに注意する。

5年 国語



振り返りポイント

- ・ 物語の流れに合わせて左から右へ書くようにした(授業の流れ)
- ・ 大事な箇所は赤を使った(大事なポイント)

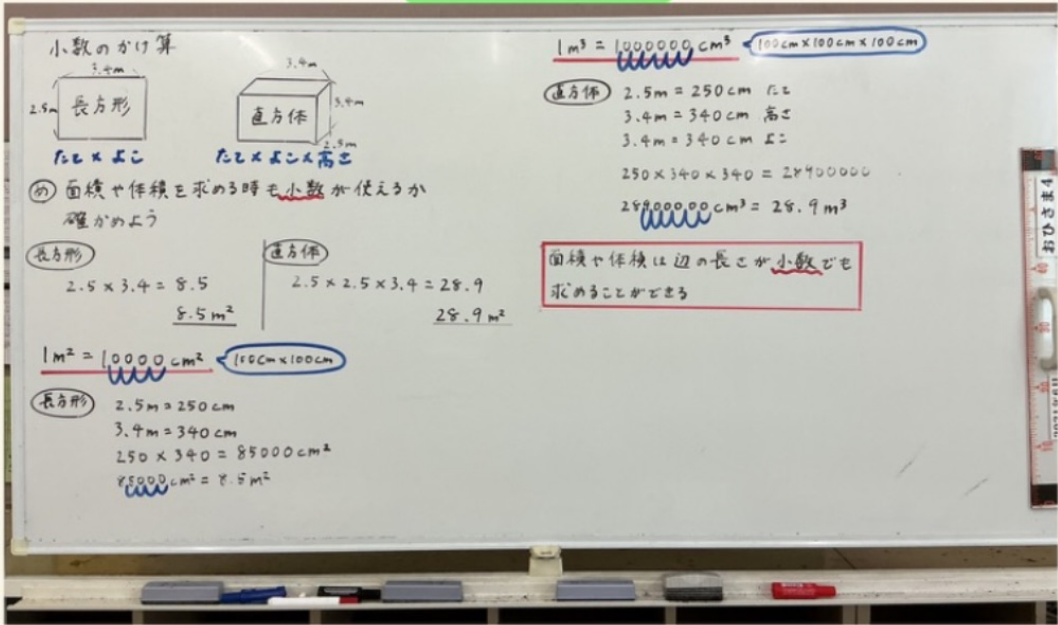
つながりポイント

- ・ 前の場面の語句も使った(既習内容)
- ・ イラストで登場人物の状況が分かるようにした(情報)

こだわりポイント

- ・ イラストに表情もつけて想像しやすく
- ・ 子どもの発言、言葉をそのまま使う

5年 算数



振り返りポイント

- ・ 2分割に分けて流れを分かりやすくした(授業の流れ)
- ・ まとめは赤で囲む(大事なポイント)

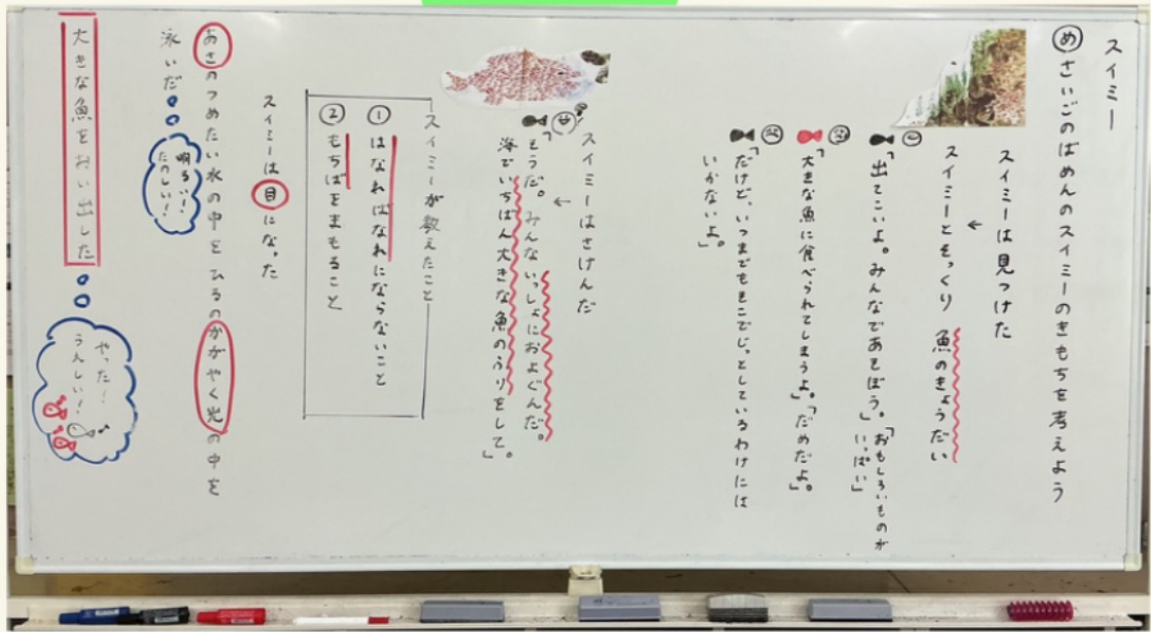
つながりポイント

- ・ 面積、体積の公式も記入(既習内容)
- ・ 小数点の移動をペンを使いながら一緒に確認した(情報)

こだわりポイント

- ・ 単位の変換が苦手な児童がいたため、100cm×100cmなどを書き加えた

2年 国語



振り返りポイント

- ・物語の流れに合わせて左から右へ書くようにした(授業の流れ)
- ・複数の条件が提示されている所は番号をつけて整理した(大事なポイント)

つながりポイント

- ・挿絵と板書を連動させた(情報)
- ・イラストで誰のセリフが分かるようにした(情報)

こだわりポイント

- ・イラストに表情もつけて想像しやすく
- ・子どもの発言、言葉をそのまま使う

常に心がけていること

私の学級には、「視覚優位」「抽象的な表現が苦手」「耳からの情報処理が難しい」「集中できる時間が短い」といった特性をもつ児童が多くいます。そのため、以下の点を意識して板書を行っています。

① イラストや図を積極的に取り入れる

登場人物の気持ちを尋ねたうえで、表情をイラストに描きます。すると、「そうそう、こんな顔!」と嬉しそうに反応してくれます。図形を描くときも、まず特徴を聞き出してから描くようにしています。こちら「そうそう、こんな形!」と喜んでくれます。自分の言ったことが目に見える形で表現されることで、理解されたと実感できるようで、以前よりも積極的に発表してくれるようになりました。

② 目の動きがシンプルになるように工夫する

「右を見て、上を見て、今度は下を見て……」というように目線の移動が多いと、混乱してしまう児童がいます。そのため、国語では左から右へ、算数では左右に2分割するなど、視線の動きがシンプルになるように板書の構成を工夫しています。

③ 子どもと一緒に板書を完成させる

児童の言葉を板書に反映させることを大切にしています。意見が出にくいときには、当てはまる語句を一緒に埋めてもらうようにしています。少人数学級では特に、子どもの声を取り入れやすいため、常に対話しながら板書を進めるよう心がけています。

今回ご紹介したような工夫を通して、「伝わる」「わかる」という実感を子どもたちと一緒に味わえるようになってきたことを嬉しく感じています。まだまだ試行錯誤の毎日ですが、これからも子どもたちの姿をよく見ながら、板書をより良いものにしていきたいです。

グループ研究（板書）

赤坂 真依

ふりかえりが書ける板書

その時間に考えることを明確化

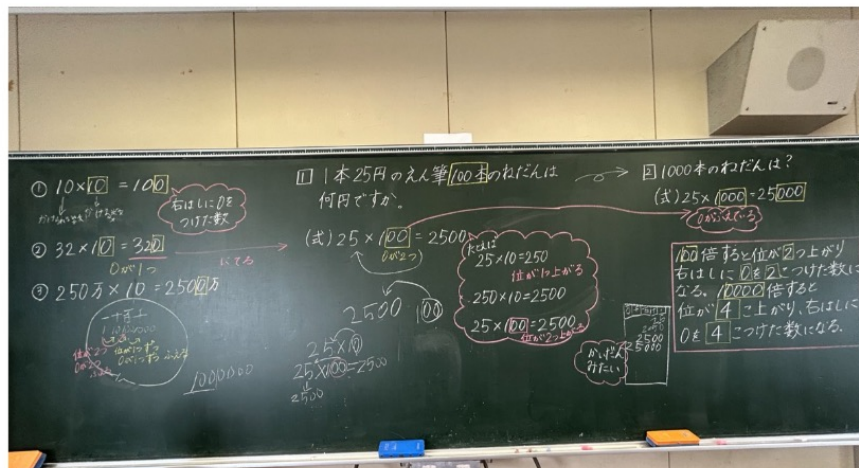
つながりが見える板書

子どもを登場させる（名前、考え）

思考の流れを残す

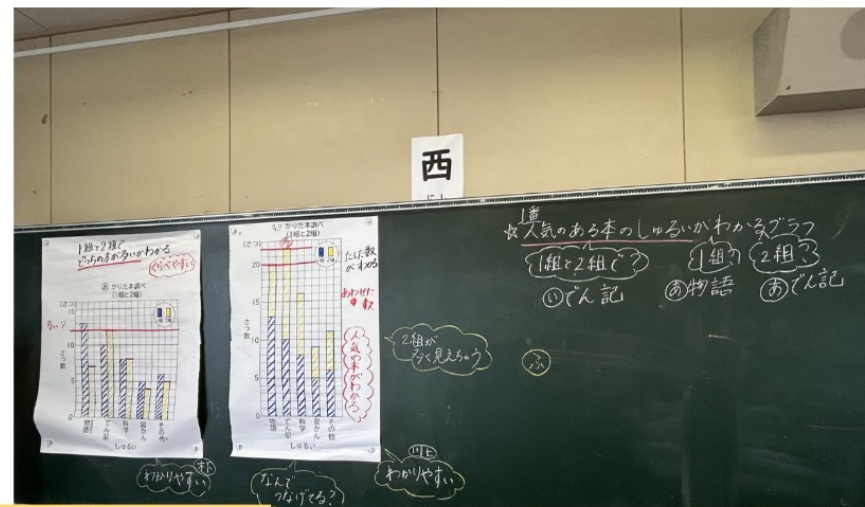
その他

子どもが撮りたくなる板書（授業が終わってからも考えたいな）



○子どもの考えを表現

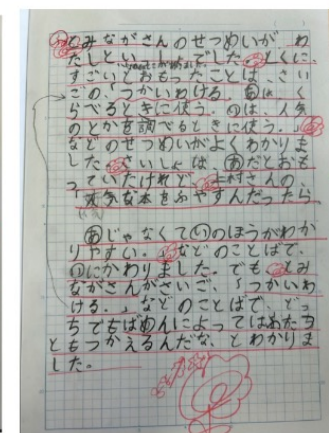
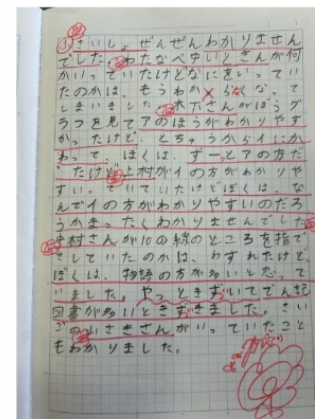
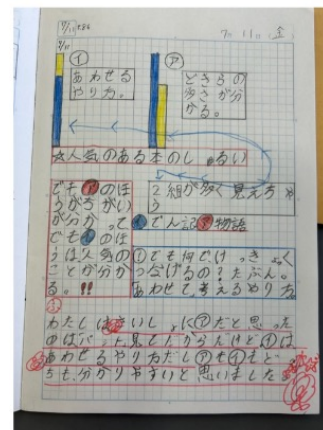
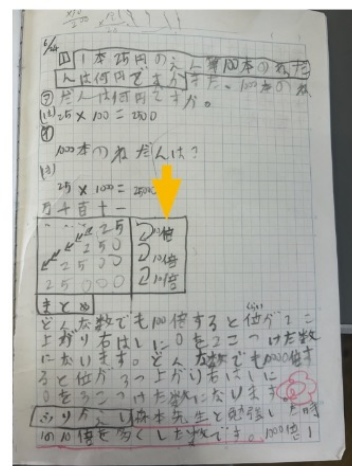
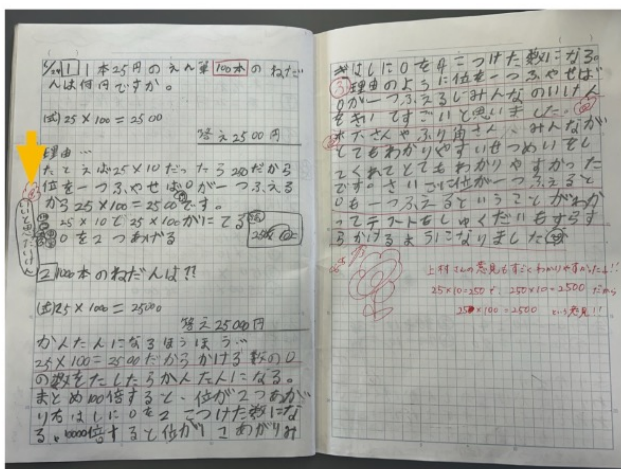
✗この時間に考えることが明確化されていない



○子どもの考え、名前が登場

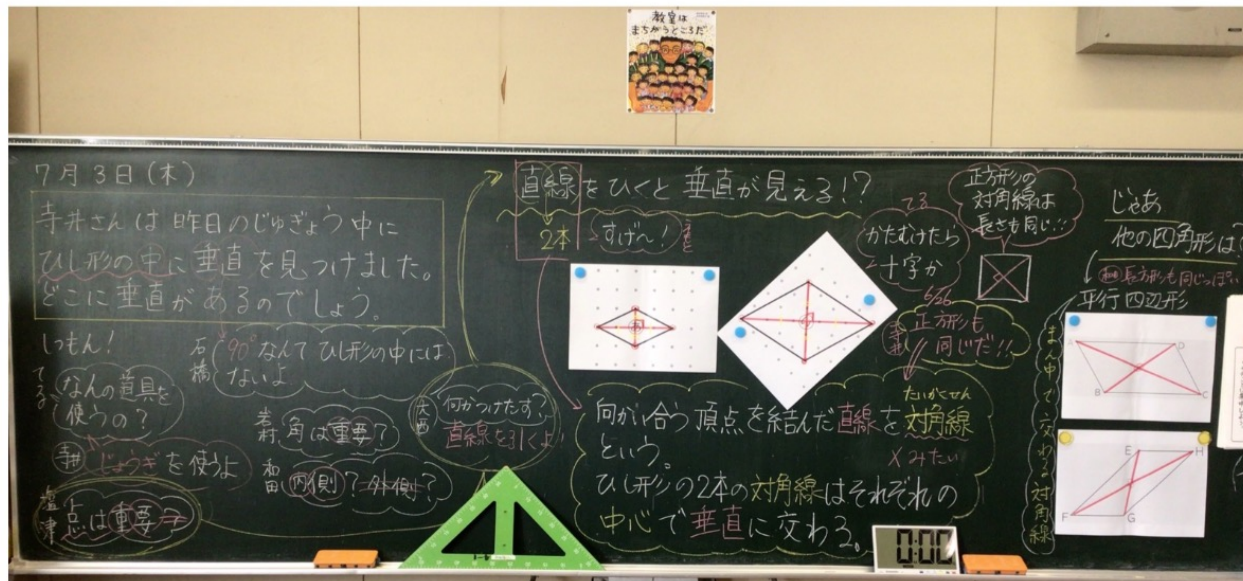
✗この時間に考えることをもっとわかりやすく

✗思考の流れがわかりにくい



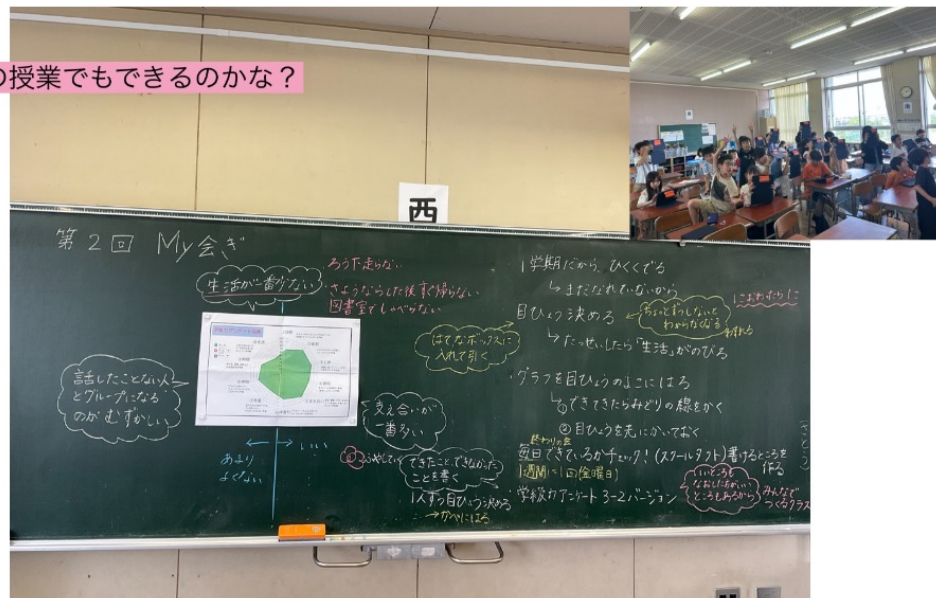
つながりが見える板書

辻井先生



子どもが撮りたくなる板書

ほかの授業でもできるのかな?



- ・自分たちがいっぱいアイディア出したな
- ・自主学習で続きを考えたいな